

# 多摩

模型を小林市長(右から2人目)に説明する佐山さん(左端)と岡本さん(その右)、大杉さん(右端)＝小平市役所で



職業能力開発総合大学校東京校(小平市)の学生らが、一六〇〇年代後半の小平市小川町二丁目周辺の街並みを再現した模型を製作し二十二日、小平市に引き渡された。民家や森、玉川上水など、小平市で最初に開拓された旧小川村の様子が約四百分の一の模型としてよみがえった。

(萩原誠)

## 街

## 並

## 小平み江戸期<sup>旧</sup>小川村

## 再

## 現

施行五十周年に向けて市史編さん事業を進めている。それを知った大杉さんが模型の製作を市に提案、職能大で建築などを学んでいる佐山さんらの協力で仕上げた。模型は昨年八月から約九カ月かけて作製。縦一辺、横一

製作したのは、同校三年の佐山勇太さん(左)と岡本龍さん(右)、小平市在住で市内の図書館でボランティアをしている主婦の大杉和美さん(左)の三人。

小平市は二〇二二年の市制

・五辺で、小川村の名の元になった小川家に所蔵されていた一六七四年ごろの小川村の絵図を基に、さまざまな資料などを参考にして街並みを再現した。佐山さんと岡本さんは「マツやケヤキなどの樹木や川の流れを再現するのが大変で苦労した」と話す。引き渡しを受け、市は二十三日から七月十五日まで模型を小平市中央図書館で展示した後、同市小川西町図書館や市役所ロビーでも順次、展示する予定。小林正則市長は「小平市のルーツや発展を感じることが出来る模型で、市民にとって貴重な財産になる。ぜひ多くの市民に見てほしい」と話している。

職能大生2人と主婦の大杉さん

### 400分の1 模型に